

福島経済マンスリー

7月の県内経済は、一部に弱い動きがみられ、全体では持ち直しの動きが緩やかになっている。

1. 2018年7月の県内経済

項目	コメント	景況判断	
		変化方向	水準
県内経済の景況	県内経済は、公共工事などがやや回復しているものの、生産活動には弱さがみられるなど、全体では持ち直しの動きが緩やかになっている。		
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）は、百貨店が11カ月連続で前年を下回ったものの、スーパーが2カ月連続で前年を上回り、合計でも2カ月連続で前年を上回った。乗用車新車登録台数は、普通車、小型車、軽乗用車がいずれも前年を上回った。		
公共投資	公共工事前払保証取扱は、件数が2カ月連続、請負金額と保証金額が4カ月ぶりに前年を上回った。復旧・復興の進捗に伴い、請負金額は基調としては減少傾向で推移しているものの、震災前を上回る水準を維持し、直近ではやや回復がみられる。		
設備投資	民間非居住用建築着工は、棟数が4カ月連続、床面積と工事費予定額が3カ月連続で、いずれも前年を上回った。1～7月累計では、棟数と床面積が前年同期を上回っている。		
住宅投資	新設住宅着工戸数は、貸家が2カ月ぶりに前年を下回ったものの、持家が2カ月連続、分譲が3カ月連続で前年を上回り、全体でも2カ月連続で前年を上回った。		
生産活動	鉱工業生産指数は、前月比（季節調整済指数）が△6.5%と2カ月ぶりに前月値を下回った。業種別の前月比をみると、「窯業・土石製品工業」など4業種で上昇し、「電気機械工業」など15業種で低下した。		
雇用動向	有効求人倍率は、季節調整値が前月比+0.04ポイント、原数値が前年同月比+0.06ポイントとなった。一方、雇用保険受給者実人員は前年同月比△3.5%と6カ月連続で前年を下回った。		

注：「変化方向」は前月と比較した現在における景況の変化方向（：改善、：不変、：悪化）、「水準」は現在における景況の水準をそれぞれ示す。「変化方向」は当月と前月における3カ月加重移動平均の前年同期比の比較、「水準」は当月の3カ月加重移動平均値と過去5年間の平均値の比較等を参考に、それぞれ判断している。ただし、「変化方向」が改善または悪化の場合でも、「水準」が変わらない場合もある。したがって、足元の動向を示す「コメント」と「景況判断」は異なる場合もある。なお、公共投資および設備投資は6カ月加重移動平均値による判断、鉱工業生産指数は6月データ。

〈天気図（水準）の意味〉

晴れ	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨

良
い
悪
い

2. 県内経済動向の概要

(1) 前年同月比

(単位：％、ポイント)

	項 目	前 年 同 月 比					
		2018年2月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	0.5	0.4	△ 0.0	△ 1.5	1.0	0.5
	乗用車新車登録台数	△ 5.2	△ 6.4	△ 2.6	△ 5.3	△ 9.0	39.7
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	△ 17.3	12.9	△ 3.2	△ 57.9	△ 44.8	4.8
設備投資	建築着工工事費予定額（民間非居住用）	10.1	△ 8.4	△ 27.8	71.2	14.4	58.9
住宅投資	新設住宅着工戸数	△ 5.3	△ 30.9	△ 19.9	△ 30.7	26.0	5.5
生産活動	鉱工業生産指数（総合）	△ 6.2	△ 4.2	△ 3.3	3.9	△ 3.4	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）	0.07	0.04	0.07	0.08	0.04	0.06
	雇用保険受給者実人員	△ 5.3	△ 6.6	△ 1.7	△ 3.6	△ 7.1	△ 3.5

注1 鉱工業生産指数は原指数、有効求人倍率は原数値。Pは速報値、rは訂正值。

(2) 前月比

(単位：％、ポイント)

	項 目	前 月 比					
		2018年2月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	△ 10.8	11.6	△ 4.9	2.3	△ 2.3	6.4
	乗用車新車登録台数	8.3	59.3	△ 49.1	△ 0.8	23.2	28.2
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	△ 9.6	91.4	△ 26.8	△ 39.9	76.1	△ 2.0
設備投資	建築着工工事費予定額（民間非居住用）	△ 3.8	37.5	46.4	△ 30.1	△ 26.2	103.9
住宅投資	新設住宅着工戸数	4.3	△ 24.4	44.9	△ 37.0	69.6	3.7
生産活動	鉱工業生産指数（総合）	1.7	5.5	△ 2.4	4.2	△ 6.5	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）	△ 0.02	0.02	0.02	△ 0.02	△ 0.03	0.04
	雇用保険受給者実人員	△ 5.6	1.3	△ 0.9	22.0	△ 3.0	2.9

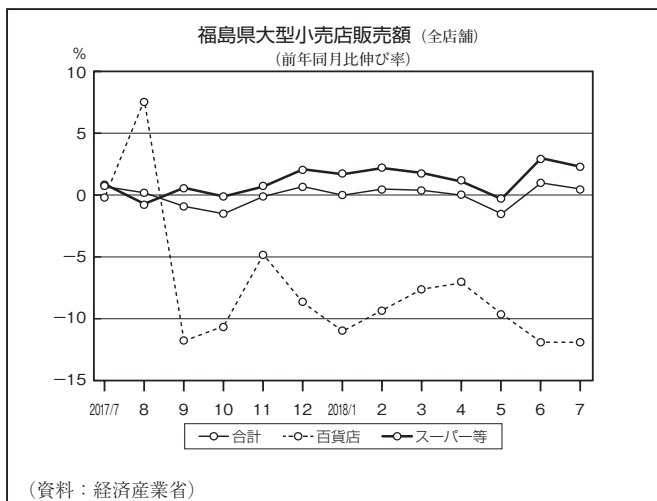
注2 鉱工業生産指数は季節調整済指数、有効求人倍率は季節調整値。Pは速報値、rは訂正值。

3. 県内経済動向

消費動向

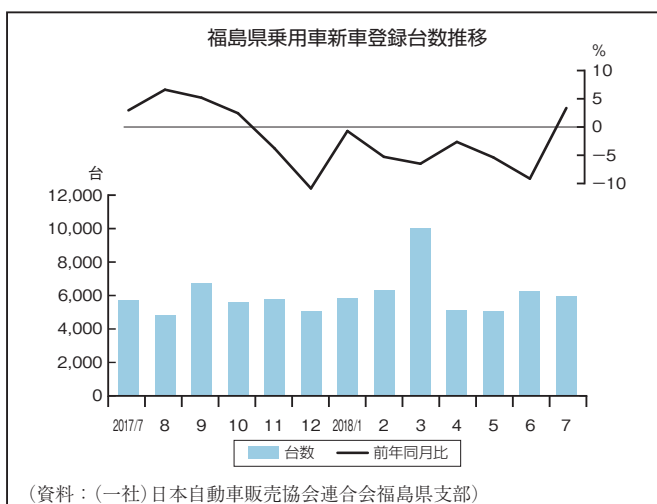
大型小売店：2カ月連続で前年比増

7月の県内大型小売店の販売額（全店舗ベース）は、合計で214億49百万円（前年同月比+0.5%）と2カ月連続で前年を上回った。業態別で見ると、百貨店は、衣料品、飲食料品がともに前年を下回り、合計では同△11.9%となった。一方、スーパーは、衣料品が前年を下回ったものの、飲食料品が前年を上回り、合計では同+2.3%となった。



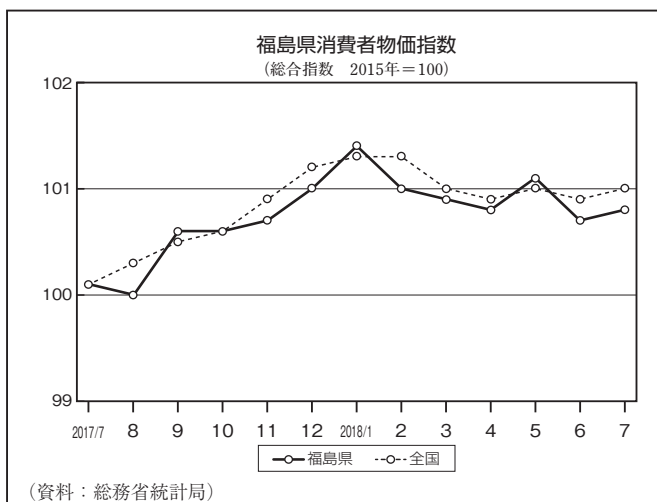
乗用車販売：9カ月ぶりに前年比増

7月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で5,918台（前年同月比+3.3%）と、9カ月ぶりに前年を上回った。車種別で見ると、普通車が1,823台（同+3.1%）で7カ月ぶり、小型車が1,884台（同+4.1%）で10カ月ぶり、軽乗用車が2,211台（同+2.8%）で2カ月連続と、いずれも前年を上回った。



消費者物価指数：前年比・前月比ともに上昇

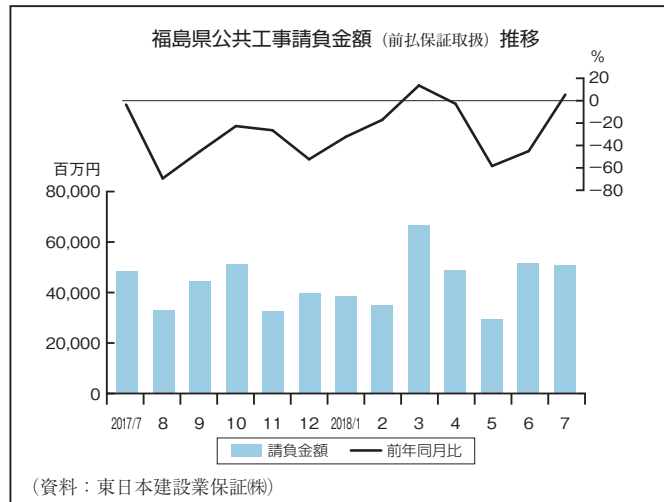
7月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、2015年=100）が100.8で前年同月比+0.7%、前月比+0.1%となった。費目別に前月比で見ると、「食料」の103.1（同+0.8%）など7費目で上昇し、「被服及び履物」の95.2（同△3.5%）など2費目で低下した。



公共投資

公共工事：請負金額は4カ月ぶりに前年比増

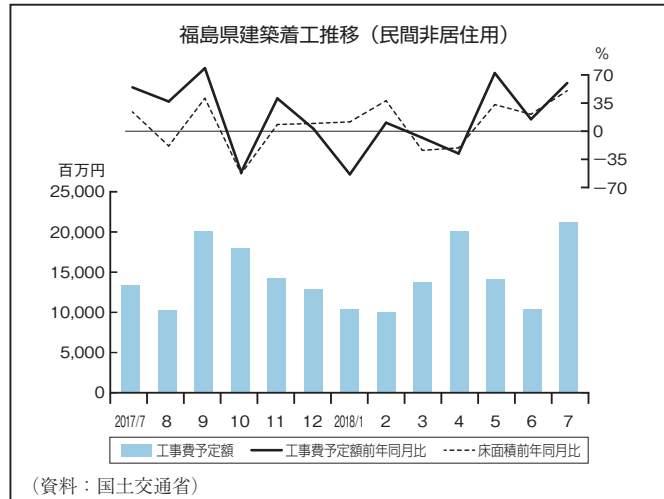
7月の公共工事前払保証取扱は、件数が829件（前年同月比+7.8%）で2カ月連続、請負金額が510億50百万円（同+4.8%）、保証金額が235億78百万円（同+11.2%）でともに4カ月ぶりと、いずれも前年を上回った。



設備投資

設備投資：工事費予定額は3カ月連続で前年比増

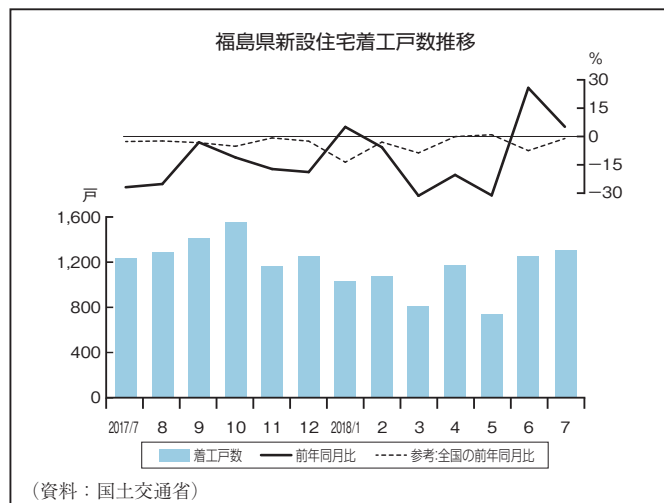
7月の建築着工（民間非居住用）は、棟数が211棟（前年同月比+31.9%）で4カ月連続、床面積が90,597㎡（同+49.5%）、工事費予定額が212億9百万円（同+58.9%）でともに3カ月連続と、いずれも前年を上回った。



住宅投資

住宅建設：着工戸数は2カ月連続で前年比増

7月の県内新設住宅着工戸数は、1,302戸（前年同月比+5.5%）と2カ月連続で前年を上回った。主な利用関係別にみると、「貸家」が495戸（同△12.7%）で2カ月ぶりに前年を下回ったものの、「持家」が582戸（同+7.2%）で2カ月連続、「分譲」が174戸（同+42.6%）で3カ月連続と、ともに前年を上回った。

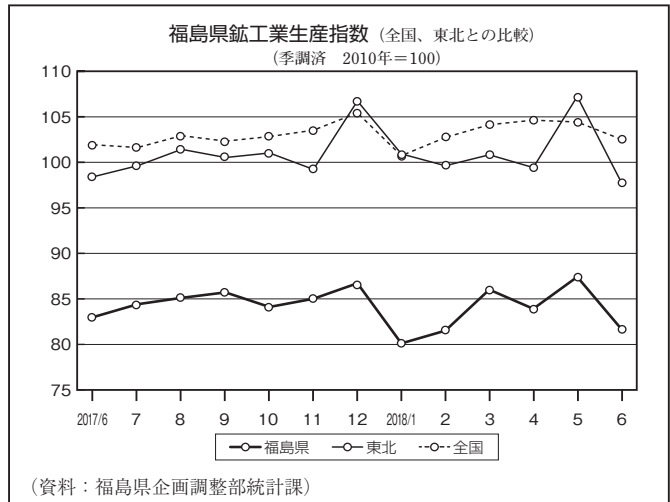


生産活動

※鉱工業生産指数は6月のデータ

鉱工業生産指数：前月比・前年比ともに低下

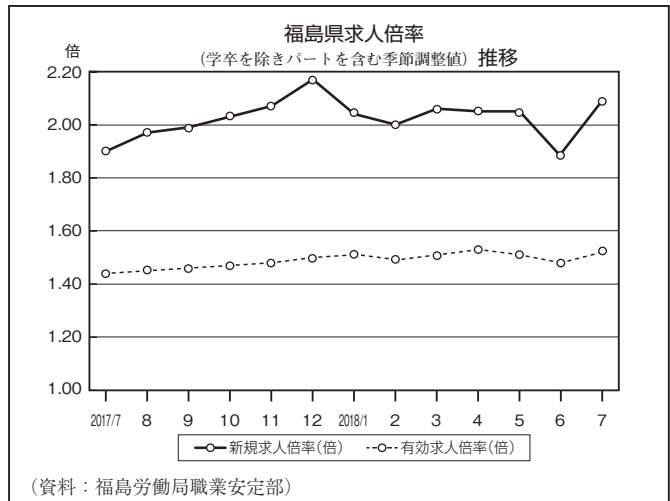
6月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は81.7で前月比△6.5%と2カ月ぶりに前月値を下回った。一方、原指数は84.1で前年比△3.4%と2カ月ぶりに前年値を下回った。業種別の季節調整済指数をみると、「窯業・土石製品工業」（前月比+9.9%）など4業種で上昇し、「電気機械工業」（同△16.9%）など15業種で低下した。



雇用動向

雇用動向：有効求人倍率は前月比・前年比ともに上昇

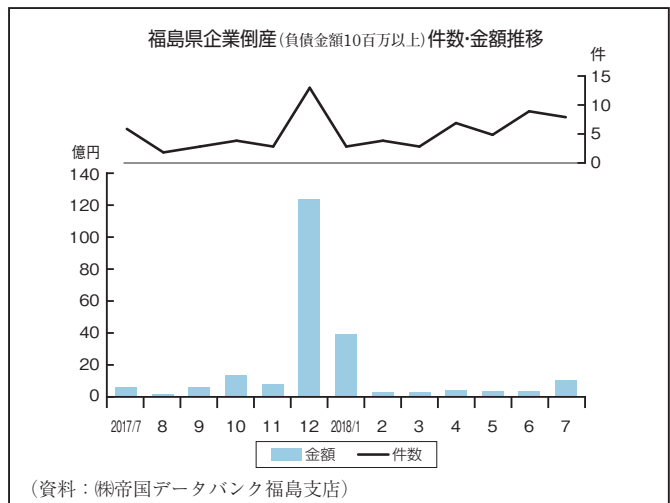
7月の新規求人倍率は、季節調整値が2.08倍（前月比+0.20ポイント）、原数値が2.20倍（前年同月比+0.14ポイント）となった。また、7月の有効求人倍率は、季節調整値が1.52倍（前月比+0.04ポイント）、原数値が1.44倍（前年同月比+0.06ポイント）となった。一方、7月の雇用保険受給者実人員は6,630人（前年同月比△3.5%）と6カ月連続で前年を下回った。



企業倒産

企業倒産：件数・金額ともに前年比増

7月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、件数が8件（前年同月比+33.3%）、負債総額が10億20百万円（同+76.8%）と、ともに前年を上回った。業種別では、サービス業で3件、建設業で2件、製造業、小売業、運輸・通信業で1件ずつとなった。

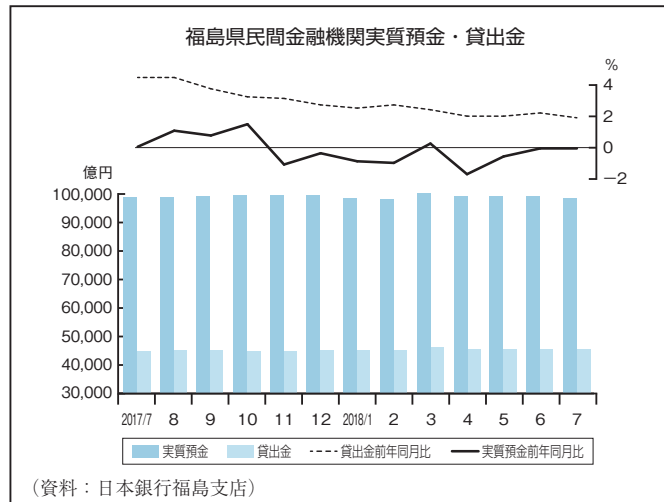


金融動向

資金需給：実質預金は前年比減

県内金融機関（全国銀行、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の7月末の実質預金残高は、9兆8,960億円（前年同月比△0.1%）と4カ月連続で前年を下回った。一方、貸出金残高は、4兆5,619億円（同+1.8%）と5年2カ月連続で前年を上回っている。

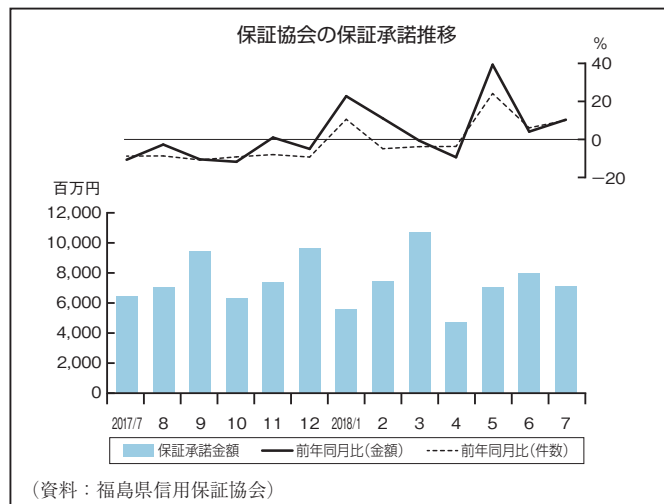
※実質預金は、総預金から手形・小切手を控除したものの。



保証協会：保証承諾は件数・金額ともに前年比増

7月の保証承諾は、件数が629件（前年同月比+10.0%）、保証金額が71億10百万円（同+10.3%）となった。また、7月末日現在の保証債務残高は、件数32,077件（同△10.1%）、金額2,737億48百万円（同△9.5%）となった。

一方、7月中の代位弁済は、件数が28件、金額が1億8百万円となった。



4. 業種別動向

消費動向

※企業ヒアリング等による結果

家電大型専門店 7月の家電大型専門店の売上高は、スマートフォンが好調、エアコンや扇風機にも伸びがみられたものの、合計では高水準であった前年をやや下回った。

ホームセンター 7月のホームセンターの売上高は、家電製品が前年を上回ったものの、主力の園芸・農業資材や日用品などが前年比減少したこと

で、合計でも前年を3%ほど下回った。

旅行 7月の個人旅行取扱額は、国内旅行が沖縄や北海道などを中心に前年を10%ほど上回り、海外旅行はほぼ前年並みとなった。

高速道路 7月の県内自動車道出入台数は、合計で4,821,271台（前年同月比△12.9%）と、7カ月連続で前年を下回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）が2,681,308台（同△2.6%）、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）が582,884台（同△4.7%）でともに3カ月連続、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）

が365,163台（同△11.2%）で5カ月連続、常磐自動車道（いわき勿来IC～新地IC）が1,191,916台（同△32.3%）で11カ月連続と、いずれも前年を下回った。

福島空港 7月の福島空港国内定期路線の利用客数は、21,292人（前年同月比△10.2%）と4カ月ぶりに前年を下回った。路線別にみると、大阪便が13,603人（同△8.7%）で7カ月ぶり、札幌便が7,689人（同△12.7%）で3カ月連続と、いずれも前年を下回った。（国際定期路線は全便運休）

生産活動

※企業ヒアリング等による結果

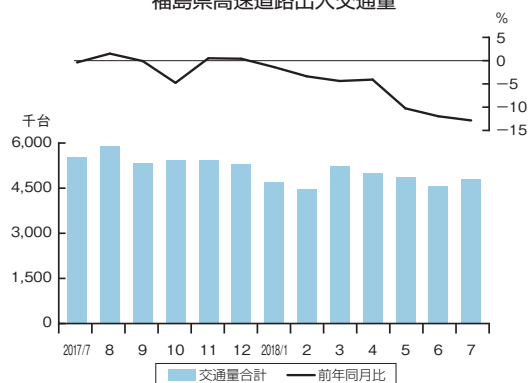
化学 7月の高性能樹脂は、自動車の部品用素材向けが好調な受注を維持し、家庭用製品も堅調に推移するなど、生産水準は前年を上回る状況が続いている。

鉄鋼・金属 7月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材が前年をやや下回り、半導体向け電子材も前年を10%ほど下回ったものの、受注状況は安定している。7月の建機用鋳造品の生産は、好調な受注を維持し、前年を35%ほど上回った。7月の鋳鋼品の生産は、高付加価値製品の受注が増加したことによりバルブ部品が前年を5%ほど上回ったほか、船用部品も前年をやや上回った。

輸送用機械 7月の自動車用鋳造品は、国内外ともにトラック用の受注が引き続き好調で、前年を上回る生産水準を維持している。また、オイルシールは、特に海外向け自動車関連の受注が好調で、生産水準は前年を上回る状況が続いている。

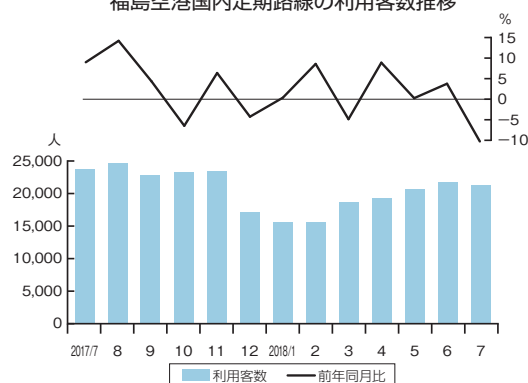
電気機械 7月の電気機械の生産は、誘導炉が前年を上回ったものの、変圧器や配電盤、車載モータなどが前年を下回り、合計では前年を30%ほど下回った。

福島県高速道路出入交通量



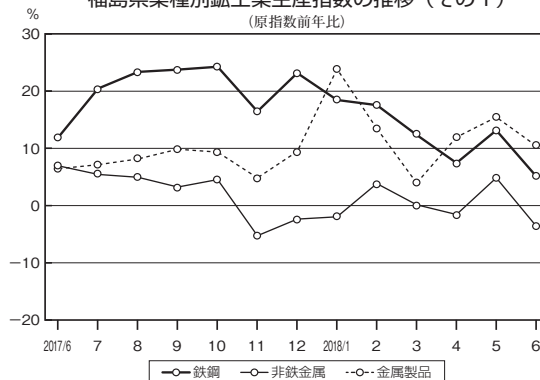
(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

福島空港国内定期路線の利用客数推移



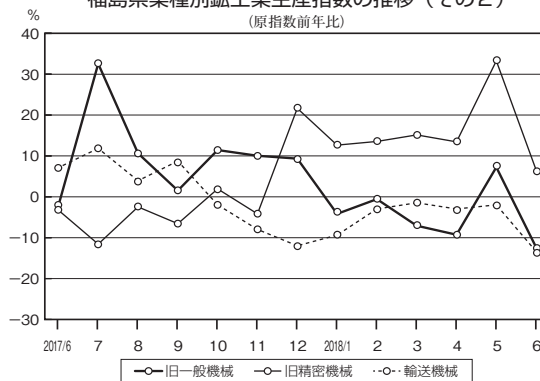
(資料：福島県商工労働部空港交流課)

福島県業種別鋳工業生産指数の推移 (その1)



(資料：福島県企画調整部統計課)

福島県業種別鋳工業生産指数の推移 (その2)



(資料：福島県企画調整部統計課)

情報通信機械 7月の情報処理装置の生産は、前月比・前年比ともにやや上回る水準で、堅調に推移している。

電子部品・デバイス 7月のLSI（大規模集積回路）の生産は、好調だった前年との比較では10%ほど下回ったものの、前月比では5%ほど上回り、需要回復による生産増加が続いている。

精密機械 7月の医療用内視鏡は、国内外ともに受注が堅調に推移し、前年をやや上回る水準となった。また、デジタル一眼レフカメラ用レンズは、国内外での需要が引き続き旺盛で、フル稼働の生産が続いている。

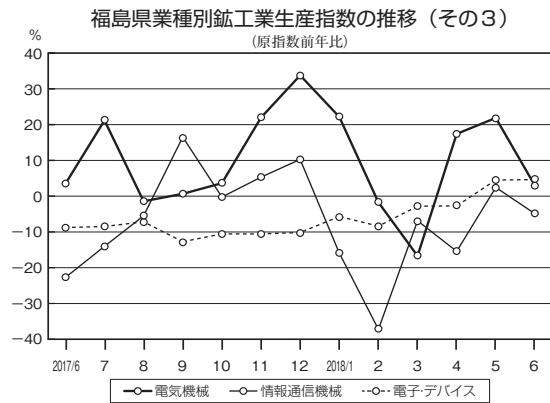
窯業・土石 7月の生コンクリート出荷量は、全体で146,282m³（前年同月比△5.9%）と5カ月連続で前年を下回った。地域別にみると、官公需で前年を上回ったのは復興が進む相双地域のみとなった。一方、民需ではマンションや病院関連の建設が進む県中地区が前年を大きく上回った。

紙・紙加工品 7月の製紙の生産は、感熱紙が輸出を伸ばすなど底堅く推移している一方、ノーカーボン紙が引き続き減少傾向にあり、全体では前年を10%ほど下回った。

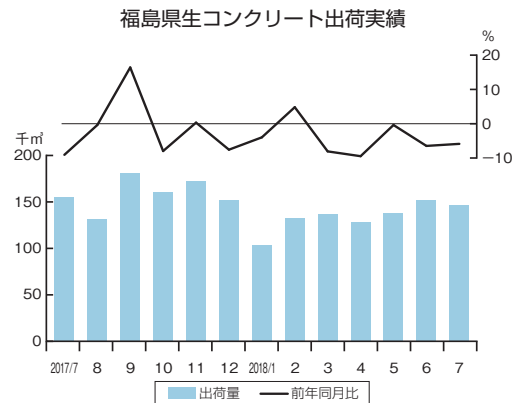
清酒 7月の清酒移出数量は、848kL（前年同月比+0.8%）と5カ月ぶりに前年を上回った。酒類別では、一般酒（特定名称酒以外の酒）が337kL（同△8.9%）と5カ月連続で前年を下回ったものの、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が511kL（同+8.5%）と2カ月連続で前年を上回った。

化合繊維物 7月の化合繊維物は、品目の変更などから生産額は前年を15%ほど下回ったが、受注状況は安定している。

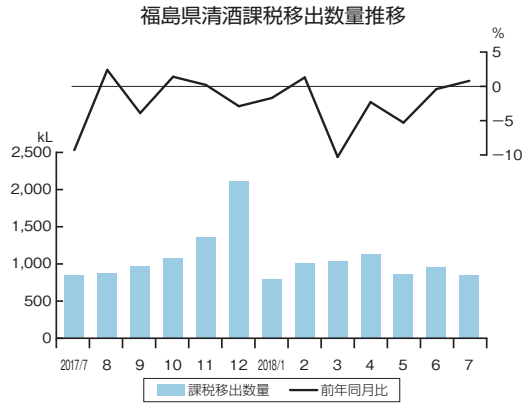
ニット 7月のニットは、冬物の生産が中心となり、生産額は前年比ほぼ横ばいとなった。



(資料：福島県企画調整部統計課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)



(資料：福島県酒造組合)